

仲多度・善通寺支部国語部会

仲善・善西中 田中真佑美

1 研究主題

生きて働く力を育む国語教室

～言葉による見方・考え方を働かせ

深まる学び～

(学びの深まりを表現する書く活動の充実)

2 研究活動の概要

(1) 5月1日(水)

多度津町立多度津中学校

- ① 研究主題の決定
- ② 研究活動の計画

昨年度の実践を経て、書くことへの苦手意識をさらに減らし、文章を見直す機会を充実するための実践を各校で行うことになった。

- ③ 研究組織の編成

(2) 6月14日(金)

まんのう町立満濃中学校

《夏季研修会の発表検討会を利活用しての
部会員の資質・能力の向上》

- ① 研究・発表内容確認
- ② 討議
 - ・ 実践内容の成果と課題について
 - ・ 発表に必要な資料について

(3) 7月26日(金)

- ① 発表者からのプレゼンリハーサル
- ② 討議
 - ・ 発表内容の整合性について
 - ・ 予想される質問について

(4) 7月30日(火)

夏季研修会にて支部発表

「書くこと」について支部で行った二つの実践を発表した。

3 実践事例① (普通寺市立東中学校)

『字のない葉書 (光村図書2年)』

「筆者の立場で書かれた文章を
父の立場でリライトし、
父の心情を想像しよう」

知識・技能(1)エ
書く(1)ウ、エ

I 生徒の実態

アンケートをとると、「書くこと」が「嫌い」、「どちらかという嫌い」と回答した生徒が多い。

II 手立て

- ・ 「書くこと」への抵抗感を減らすために、タブレットで作品づくりをさせる。
- ・ 作品発表をグループで行い、相互評価することで自分の読みを確かなものにする。

III 単元の流れ

- ① 全文を通読し、内容をおさえる
- ② 登場人物の人物を捉える
- ③ 筆者の立場で書かれた文章を父の立場でリライトし、父の心情を想像する。

1. リライトの練習をする

- (例) ・ 文体を変える
・ 書き言葉を話し言葉にする
・ 印象を変えるために似た意味をもつ別の言葉に書き換える
・ 共通語を方言にする
・ 主体を変える など

2. 父の立場から出来事や名称を書き換えたり、文章に書かれてあることを基に、父の心情を想像して書き加える

- ④ できた作品をグループで発表し合い、相互評価する。

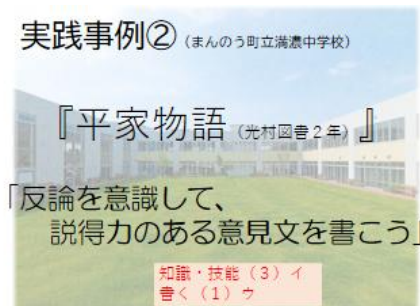
IV 成果

- ・ 「書くこと」への苦手意識が少なくなってきた。
- ・ リライトすることで父親の心情を深く想像し、より父親に寄り添った表現ができた。

V 課題

稚拙な表現や誤った表現になっていた作品もみられた。推敲する学習活動の入った学習計画を提示する必要がある。

3 実践事例② (まんのう町立満濃中学校)



I 生徒の実態

「書くこと」への抵抗感がある生徒は少なく、書き慣れている。しかし、一度書いた文章を見直して書き直すことができていない。

II 手立て

タブレットを用いて苦手意識を減らすとともに意見交換をしやすくする。

III 単元の流れ

- ① 全文を通読し、内容をおさえる
- ② 「義経の行動に感心するかどうか」自分の立場を明らかにして意見文メモを書く。
- ③ コラボノートで意見を交流する
- ④ 交流したことをもとに意見文を書く。
- ⑤ 作品をチェックし合う。

チェック項目

- ① 誤字脱字はないか。
- ② 段落構成(3段落くらいが適当)は考えられているか。
- ③ 話し言葉はないか。
- ④ 読点の打ち方は適当か。
- ⑤ 文体の統一はできているか。
- ⑥ 一文が長すぎず、分かりやすいか。
- ⑦ ねじれはないか。
- ⑧ 原稿用紙の使い方に誤りはないか。



IV 成果

- ・ 理由や根拠を明確にして書けた。
- ・ 反論を想定することで、自分の意見を見直せた。
- ・ 書き直しのポイントを理解し、体裁を整えられた。

V 課題

見直す力が不十分な生徒がいるため、意図的に繰り返し文章を練る体験が必要である。また、少ない字数でまとめる力を育てる取組が少なく、言葉の精選ができていな

い。説明的文章の段落を要約する活動を取り入れる。

3 研究授業

- (1) 授業者 中山 佳昭 教諭
- (2) 題材 第3学年
「俳句の可能性・俳句を味わう」
- (3) 本時の学習指導目標
新聞記事から季語を見つけ出し、有効に活用して俳句を創作することができる。
- (4) 学習指導過程
 - ① 前時の復習、学習課題の確認をする。
 - ② 俳句を創作する。
 - (1) 季語となる言葉を薄く丸で囲む。
 - (2) 俳句に使いそうな言葉にできるだけ印をつける。
 - (3) 言葉を選び、五・七・五に整える。
 - (4) 文字がつぶれないように丁寧に縁取りをする。
 - (5) 周りを塗りつぶして完成。
 - ③ 班内で交流し、代表作を決め、ロイロノートで共有する。
- (5) 授業討議

生徒が主体的に新聞の言葉と向き合い、俳句作りを楽しんでいる様子が見られた。「新聞の中から」という広い範囲から言葉を探す活動だったため、記事やページを限定するなどの工夫も必要である。

4 成果と課題

令和5年度の全国大会での分科会発表を踏まえて、令和6年度は夏季研修での発表に向けて、支部全体の課題を共有し、それぞれの学校で実践を行った。実践の指導の内容やICTの活用の仕方などを共有し検討した。その中で、題材観や指導観について活発な話し合いがなされ、授業力の向上にもつながったと考えられる。

令和9年度には、四国大会で「読むこと」についての発表が決まっている。どのような単元づくりや指導方法が有効か、支部全体で継続して研究に取り組んでいきたい。